

環境運動論／文化環境学特殊講義I 2025.04.14

言葉をつくる

清水 亮

言葉＝概念

- 言葉によって考える
 - 内言ないげんと外言がいげん／思想とコミュニケーション
- 言葉の意味の把握
 - シニフィアン(signifiant)とシニフィエ(signifie)
- 対象を言葉で表現する
- 言葉には歴史がある
- 言葉は変化する
- 新しい事象を指す言葉をつくる
- 時代の中で事象と言葉とを考える

シニフィアンとシニフィエ

- シニフィアン
 - 「机」「つくえ」「ツクエ」という文字（記号）
 - 「ツクエ」という音声（記号）
- シニフィエ
 - 「机」「つくえ」「ツクエ」という文字を目にしたり、「ツクエ」という音声を聞いた時に想起するイメージ、意味内容、概念

机・つくえ・ツクエ・ツクエ



つくえ【机】

1 本を読み、字を書き、また仕事をするために使う台。ふづくえ。「—に向かう」



2 飲食物を盛った器をのせる台。食卓。



※語源 ツキエ・・・「つき(突き)」「え(枝・柄)」

机・・・木でできた(偏)脚で支えられた台(旁)

table

1 [furniture] a piece of furniture with a flat top supported by legs

2 [restaurant] a table for people to eat at in a restaurant

3 [list] a list of numbers, facts, or information arranged in rows across and down a page

tabula (latin)

- board, plank 板
- tablet, writing-tablet 平板、書き板
- record, document 記録、文書

平たい板 大きな板に脚がつくとテーブル
書くために使われるとタブレット
書かれたものがテーブル(表)

desk

- 1 a piece of furniture like a table, usually with drawers in it, that you sit at to write and work**
- 2 a place where you can get information or use a particular service in a hotel, airport etc**
- 3 an office that deals with a particular subject, especially in newspapers or television**

deskの語源

- 古代ギリシア語*discos* 円盤
- ラテン語*discus* 円盤
- プロヴァンス語*desca* かご
- 中世イタリア語*desco* 台、机

言葉＝概念

- 言葉によって考える
 - 内言と外言／思想とコミュニケーション
- 言葉の意味の把握
 - シニフィアン(signifiant)とシニフィエ(signifie)
- 対象を言葉で表現する
- 言葉には歴史がある
- 言葉は変化する
- 新しい事象を指す言葉をつくる
- 時代の中で事象と言葉とを考える

対象を言葉で表現する

シニフィエ的表現(ことばにすると長い)

「本を読み、字を書き、また仕事をするために使う台。あるいは、飲食物を盛った器をのせる台。」

シニフィアンの表現(短い)

「机」「つくえ」「ツクエ」「ツクエ」

※なぜ、短いとよいのか？

落語「寿限無 じゅげむ」

- 子どもが生まれる
- 和尚のところに行き、めでたくて、長生きが出来そうで、食いっぱぐれのない名前をつけてもらおうとする
- 和尚が蘊蓄を披露して候補を複数挙げる
- 全部書き取るが、選べないので、結局全部並べて名前にしてしまう
- 長すぎて、呼んでいるだけで大変というオチ

- 寿限無
- 五劫の擦り切れ
- 海砂利・水魚
- 水行末、雲来末、風来末
- 食う寝る所、住む所
- 藪柑子
- パイポ、シューリンガン、グーリンダイ、ポンポコピー、ポンポコナー
- 長久命、長助

- じゅげむじゅげむ ごごうのすりきれ
かいじゃりすいぎよのすいぎょうまつ
うんらいまつふうらいまつ くうねると
ころにすむところ やぶらこうじのぶら
こうじ ぱいぽぱいぽぱいぽのしゅーり
んがん しゅーりんがんのぐーりんだ
いぐーりんだいのぽんぽこぴーのぽんぽこ
なのちょうきゅうめいのちょうすけ

言葉＝概念

- 言葉によって考える
 - 内言と外言／思想とコミュニケーション
- 言葉の意味の把握
 - シニフィアン(signifiant)とシニフィエ(signifie)
- 対象を言葉で表現する
- 言葉には歴史がある
- 言葉は変化する
- **新しい事象**を指す言葉をつくる
- 時代の中で**事象と言葉**とを考える

実践知と学問知

- 社会調査

- 対話型の調査・・・ ×こちらの知りたいこと

- 調査対象者の話したいこと

- 対象者の言葉に現れる考え方・思想（現場の論理）

- 「たった一人を大切に」「最後の一人まで」

- 「十人十色」「バラバラで(なお)一緒」

- 「自立とは支え合いだ」

- 実践知と学問知との突合

- 「たった一人を大切に」「最後の一人まで」

〈生の固有性〉

共約可能な欲求 公助の対象 行政の領域

共約不可能な欲求 自助の対象 私的な領域

- 「十人十色」「バラバラで(なお)一緒」

異質性、多様性

弱さvulnerability

ともに在るco-presence

- 「自立とは支え合いだ」

自立

- 1 他への従属から離れて独り立ちすること。
他からの支配や助力を受けずに、存在すること。
- 2 支えるものがなく、そのものだけで立っていること。

「障がい者の自立」を考えてみる

「他からの助力を受けない」ことが重要？

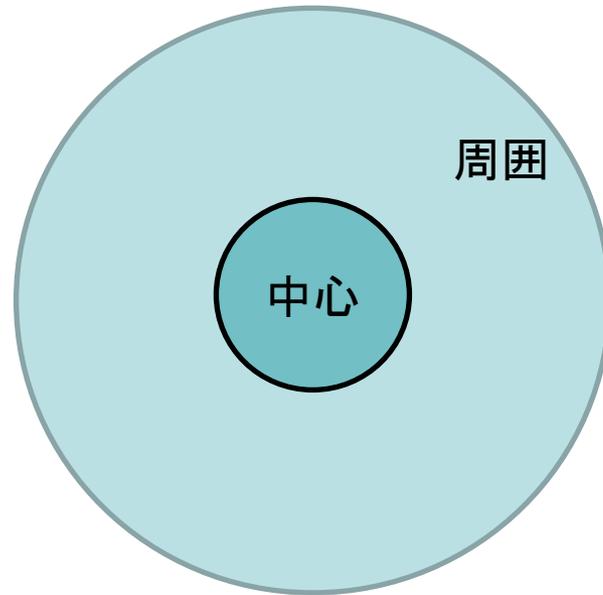
「他からの助力を受けることで可能となる自立」？

- 「環境運動論」
- 「環境」+「運動」+「論」
- 「環境」とは？
- 「運動」とは？
- 「論」とは？

- 「論」・・・何かについて論じること／論じたもの
 - 「論じる」・・・筋道を立てながら考えを説明すること
- 「運動」・・・
 - 1 物体が時間の経過とともに空間的位置を変えること。⇔静止。
 - 2 健康を保つために身体を動かすこと。
 - 3 ある目的を達するために活動したり、各方面に働きかけること。

- 「環境」・・・まわりを取り巻く周囲の状態や世界。人間あるいは生物を取り囲み、相互に関係し合って直接・間接に影響を与える外界。
 - 「円環」の思想
- 「環境」を英語にしてみる
 - environment
 - circumstances
 - atmosphere
 - surroundings
 - ~~sur~~(超えて) + unda(波)
あふれる・水びたしにする → 取り囲む

環境的思考(円環の思想)



環境＝取り囲むもの・周囲

中心が無ければ
周囲は存在し得ない

何を中心に置くのか？

- 地球環境
- 自然環境
- 社会環境
- 都市環境／地域環境
- 室内環境

- 政治的環境／經濟的環境／文化的環境
／經營環境／教育環境／...

認識主体としての人

- 「環境」の認識主体
- 人間中心主義
- 人間以外を中心に据えて考える思想
 - human rights, nature rights, animal rights

- 「環境運動」
 - 「〇〇環境」に働きかけること
 - なぜ働きかけるのか？
 - 環境に問題を発見し、それを改善しようとする

 - 誰にとっての問題なのか？
 - 主体の(再)発見